

塔の木の

子育て地蔵さん

平成元年十二月五日

富士駅北地区の塔の木に高さ七十センチぐ
らいの六面地蔵があります。今回はこの子育
て地蔵さんの話を、井出甚作じんさくさんを初め地元
の皆さんに伺いました。

流れ着いた地蔵さん

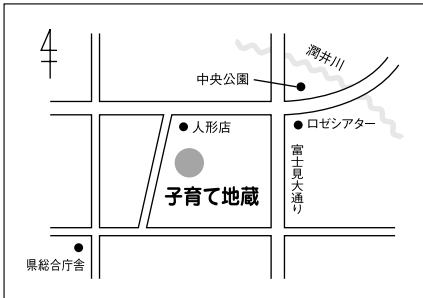
昔々のことです。塔の木の川にお地蔵さん
が流れ着きました。お地蔵さんは、この辺で
はあまり見られない六つの顔と体を持つ六面
地蔵でした。

拾い上げた村人は「これは靈験あらたかに
違いな」と、田んぼの土手に立て、子育て
地蔵として村で大切に祭りました。

みんなでほこらを建設

時は過ぎ、昭和の初めころのことです。村
の大地主のおばあさんの夢まくらに子育て地
蔵があらわれました。そして「大事にしても
らってありがたい
が、長いこと風雨
にさらされたまま
でいる。屋根をつ
けてはもらえない
だろうか」と言い
ました。

おばあさんは目
覚めると、早速近
所の人たちと相談
し、ほこらを建て





▲ 子育て地蔵さんのほくら
(平成14年1月撮影)

ることにしました。とは言っても、その費用がありません。

村人たちは相談をし、たまたまその当時、御詠歌を習っている人が多かったので、御詠歌を歌いながら寄附を集めることになりました。人々は村じゅう総出で、富士や田子浦の方まで行き、数年後やっとほくらができました。

そして現在に至るまで、塔の木の人々は「子どもがすすすすく育ちますように」と信仰を続けています。

今でも大切に

毎月二十三日には地区住民が交代で掃除をし、お経を上げています。特に八月二十三日はお祭りでお参りに行くと、子どもは紅白のだんごがもらえるとか。

今は区画整理のため、一時的に移設されています(平成元年)。